

巨木の定義

「巨木学」で扱う巨木の定義は、「命名された樹木」である。辞書で示される「巨木は大きな木(広辞苑)」という漠然とした概念とは違う。

日本の樹木は1,500種以上知られているが、巨大化する樹木はその内90種程度である。これは意外な事実で、ほとんどの樹木は巨大化しない。たとえば成長の遅いカエデやドウダンツツジ等では、幹周1m程度でも、樹齢200~600年を数える。すなわち、樹種によって巨木の概念が違うと言う事である。しかし、樹種別に巨木の定義を定めることは煩雑な上に、定義を定めるデータそのものがない。

ところが、吾々の先達はすでにこの問題を解決していたのである。巨木の多くは天然記念物に指定されている樹木である。経験法則から、樹種別の巨木を既に選定していたのである。そして、吾国にとって大切な樹木である事を広く認知させ、保護して後世に伝える為に「命名」したのである。

中には天然記念物に指定されていない巨木も多い。しかし、地元民や関係者は、指定如何に関わらず、その価値を認識し、命名し、保護しようとしてきた。縄文時代に発生した巨木信仰が影響しているのかも知れない。そして、その数は膨大なものである。あなた方の周囲にも、誰のためでもなく、黙々と巨木保護活動を行っている人々がいるのではないだろうか。こんな国は世界中探してもないのである。

それでは、現在巨木の定義はどのように定められているのであろうか。1988年環境省が全国の巨木・巨樹林調査を行うにあたって、統一した基準を定めた。それによれば、巨木の定義を次のように定めた。

- 1, 地上1.3mの位置で幹周3m以上の樹木。
- 2, 分岐幹の場合は、幹周の合計が3m以上あり、主幹の幹周が2m以上ある樹木。

結論から話すと、この定義は机上の論理である。たとえば、成長の早いスギは、樹齢130年程で幹周3m以上になる。明治初期に植林された杉林ではほとんど幹周3mを超える。そのため、環境省の巨木データベース(以下巨木DBと略す)にスギの巨木が15,600本以上登録される結果になった。果たして、成長の早い幹周3m程の一本杉を巨木として認識する者が存在するであろうか。同じような事がケヤキやクスノキ、カツラ等でも発生し、全国に巨木と称するものが六万本以上存在するという調査結果が得られたのである。

又、分岐幹の合計値を幹周とする根拠は今だ見つからない。実に不自然な定義である。単純に考えて、実感される大きさよりは、確実に大きな数字が出るであろう。幹が詰まった単幹樹と、分岐幹の合計幹周を、同じ土俵で論じる事はナンセンスではないか。

そして、この間違った定義が、幹周3m以下の、天然記念物指定樹木や立派な老木を調査対象外とした。株立ちでも、主幹の幹周が2mに達しない巨木が調査対象外となり、多くの命名されている巨木が調査から外されるという、混乱をきたしたのである。

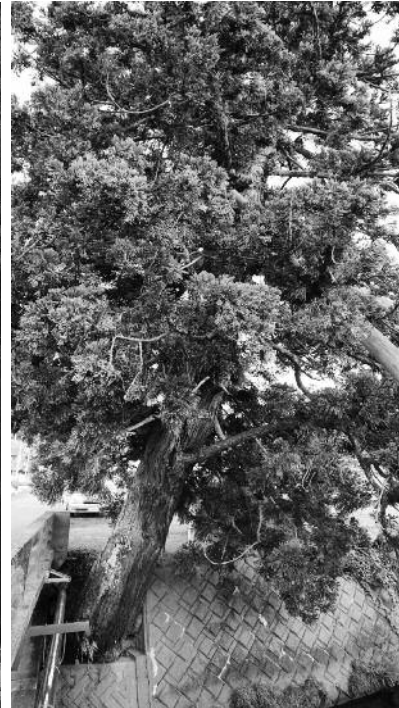
これまでに全国で巨木の著書が数多く出版されている。そして、全てが命名されている巨木を掲載している。著者の巨木選定において、巨木の定義を無意識のうちに理解していた事を証明するものである。これら全ての著書の中に、間違っても著者や地元民も認識していない樹木が掲載される事はないのである。

■巨木認識は関係者の価値観によって決定される。

巨木関係者がどのように認識するかで、巨木認識が決定される事を4つの例で説明しよう。



▲①青玉神社境内のスギ(兵庫県多可町)幹周4~6mの一本杉が7本ある。全て無名で「大きな一本杉」の概念。巨木と言う程の認識は地元関係者にもないようだ。最大の「夫婦杉」のみ命名されている。



▲②宝曆杉(石川県能登町寺分)幹周M2.4m。幹周3m以下だが、歴史的遺産として、命名し保護している。歴史の重みが、巨木認識を生み出している。



▲③老樹名木杉(石川県小松市中八里町八幡神社)幹周はわずかにM3.95mであるが、地元氏子の熱意が伝わる。



▲④幹周3.0mのケヤキ。巨木DB掲載・石川県加賀市南郷町八幡神社。根元がゴミ捨て場になっていて、地元民による巨木認識はない。

■日本人は巨木の定義を、幹周によって定義してこなかった。

樹木の多い地域では、最大の個体を神格化し、樹木の少ない地域では、たとえ小さくても神格化し、保護する傾向が見られる。墓標や記念樹として植えられた巨木は、伐採を逃れる為に神格化していく傾向がある。このように、日本人は身近な巨木に神聖なものを感じ、命名し後世に伝えようとした。すなわち、巨木は幹周で定義されるべきものではなく、人々の価値観で定義されてきたのである。

■巨木DBにおける幹周3m代の巨木考察

巨木DBの内、巨大化する樹種を調べると、

幹周3~4mのスギ	9,027本
〃 のイチョウ	3,093本
〃 のケヤキ	6,421本
〃 のクスノキ	3,351本
〃 のスダジイ	2,366本
合計	24,258本

これらの多くは神社仏閣の境内か公園等であり、ほとんど無名の存在。地元で巨木として認識されていない樹木を、幹周3m以上という間違った定義のもと、無意味としか思えない気の遠くなる調査がされた。その結果、巨木登録本数が膨大な数になったのである。